

上手な暮らし塾

特集

市政

長崎市民

「こ意見」
プレゼン

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

自治会

地域を元気に！あなたのまちの自治会 ～浪の平地区連合自治会～

地域を良くするため、さまざまな活動をしている自治会。夏祭りなどのイベントを通じて、まちを盛り上げようとがんばる自治会もあります。

浪の平地区連合自治会は、8月23日に恒例の「浪の平納涼夏祭り」を開催しました。

夏祭りの企画・準備・当日のお世話などに尽力された須藤豊晴連合自治会長にお話を伺いました。

「今年もお疲れさまでした。このお祭りが始まったきっかけは何ですか？」



平成21年に始めて、今年で6回目になります。平成19年に地元の浪平小学校が大浦小学校に統合されました。地元から小学校が無くなったことで、まちが寂しくなるのではないかと考えた地元の青年会などが中心となって、「まちににぎわいを」と始めたのがきっかけです。

「とてもにぎやかなお祭りですね」

この夏祭りは、青年会や社会福祉協議会、子ども会、消防団といった、地

域のいろいろな団体が力を合わせて開いています。それぞれの団体が、趣向を凝らしていろいろな出店を出すので、みんな楽しみにしているんですよ。

「会場の消防車の姿がひときわ目立っていましたね」

浪の平地区では、防火・防災に力を入れようと自治会・消防団などで「防災協議会」を作って、避難訓練を実施するなど、安全なまちづくりを進めています。夏祭りでも日頃の活動を紹介します。消防車が登場して啓発をしているんです。今後いろいろな行事に出掛けて、防火・防災についての皆さんの関心を高めていきたいですね。

須藤会長、ありがとうございます。

浪の平地区では、まちのにぎわいをつくっていくつと、さまざまな団体の住民が協力して、盛り上げています。あなたの町ではどうでしょう？一歩踏み出して、あなたの町の自治会を少しのぞいてみてはいかがですか。

問い合わせ

自治振興課 ☎829・1134

消費者

インターネット通販の落とし穴 ～その通販サイトは大丈夫？～



確認を見落としがちです。日本語表記でも海外の業者であったり、無関係な大手通販サイトのロゴを無断掲載する悪質なサイトも存在します。

ネット通販の利用時には、①業者の所在地・電話番号が明記されているか ②サイト内の日本語に不自然な点はないか ③極端な値引きはないか ④振込口座が店舗名ではなく、個人や外国人名義の口座ではないか、などの注意が必要です。できれば、事前に電話してみることも有効です。

業者によっては、買い手が第三者に代金を仮払いし、買い手に注文どおりに商品が到着した後に、第三者から売り手に代金を支払う「エスクローサービス」という仕組みで安全性を確保することもあります。

インターネット通販では、お金を支払った後の被害救済が非常に困難です。利用の前に、安全なサイトか確認するよう心がけましょう。

事例のように、前払いで商品を購入したが、「届かない」「違うものや偽物が届いた」といった相談が数多く寄せられています。インターネット通販では欲しい商品名から探すことが多く、お目当ての商品が見つかること購入に気を取られて、販売業者などの

* * *

「相談は消費者センター（メルカフ）きまち4階、相談専用 ☎829・1234へお気軽にどうぞ。受け付けは午前10時～午後5時です。月曜日休業（祝日の場合、直後の平日）。土・日・祝日も相談できます。」

救急

市民と消防の連携で、助かる命を救う

「応急手当の口頭指導」

応急手当が命を救う

消防局の通信指令室は、火災の発生や救急車の要請などの119番通報を受け付ける最初の窓口です。

救急車の要請の際、心肺停止、やけど、窒息などの緊急性が高い症状の場合には、救急車が到着する前に、その場に居合わせた人が応急手当を行うことで、症状の悪化を防ぐことが期待できます。

「口頭指導」と呼ばれる応急手当のお願いは、119番の係員の誘導で、通報者などに応急手当をしていただくものです。そのため、応急手当の方法について詳しく知らなくても、状況に応じて係員が分かりやすく誘導します。

その場に居合わせたかたによる応急手当にご協力ください。



救急車が到着するまでの間の、皆さんの勇気ある行動とご協力が尊い命を救います。



救命効果が 2.2倍に!

要請を受けて、救急車が現場に到着するまでの平均所要時間は約8分です。

救急車が到着するまでの間に、心肺停止状態の傷病者に対して、その場に居合わせた人が心肺蘇生を実施した場合の1カ月後の社会復帰率は9.7%。

これは、心肺蘇生を実施しなかった場合の社会復帰率(4.5%)と比べて、約2.2倍となっています。



実際にあった事例です

Aさんは市内の体育施設で運動をしていたとき、胸に激痛を感じた次の瞬間に倒れ、心肺停止となりました。

近くにいたBさんはすぐに119番通報。119番の係員に状況を伝えたところ、応急手当に協力してもらったよう求められました。

Bさんは、初めての経験に戸惑いしましたが、係員の誘導にしたがって、心臓マッサージを行いました。現場にいた友人も施設に設置してあったAEDを取ってきて、使用したことにより、救急車が到着した時には心拍が再開していました。

Aさんは応急手当により一命をとりとめ、現在は社会復帰されています。

◆ 応急手当を学びませんか

毎週水曜日に消防局(興善町)で普通救命講習(受講無料)を開催しています。

積極的に参加して、正しい応急手当の方法やAEDの使い方を身につけましょう。

問い合わせ
消防局指令課(022-20461)